8 愛媛県西条市（さいじょうし）

環境保全・景観保全

食育・教育

NPO法人（えぬぴーおーほうじん） うちぬき（うちぬき） 21（にじゅういち）プロジェクト（ぷろじぇくと）

～歴史遺産「千町棚田」と西条の環境を守ろう～

千町棚田の全景（R元年11月）

地域小学生・園児らの田植え（R2年6月）

経　緯

○千町棚田は、1500年代末期に土佐の豪族「伊藤近江守祐晴」が、「地味拓けば千町歩」を合言葉に、約80ha（石組2300枚）の広大な農地を開拓し、稲・麦作を中心に農業を行ったことに始まる。

○歴史遺産である千町棚田を石組みと自然農法で全国的な知名度アップを図るとともに石組保存を開始した。

取組内容

○耕作放棄地となっている棚田を借り入れ、市民と一緒に稲や野菜を栽培し、棚田の環境保全活動を行う。

○石組みの歴史や環境保全活動を、イベントやフェステバルで紹介したり、棚田ライトアップを実施し知名度を上げ、棚田百選に申請する。

○地元の幼稚園や小学生が参加した農業体験や水生生物調査などを行い、環境教育に結び付けた。

活動の効果

○西条市・愛媛県民への知名度向上のため、棚田で無農薬による米・柚・梅・野菜の栽培や環境保全活動（耕作放棄地解消・石垣保存）を現在、棚田再生担当班（6名）を中心に行っている。

○そばの収穫やそば打ち体験、棚田ライトアップなどさまざまなイベントを開催し棚田活動発表を行っている。

○地元丹原高校や、西条高校、京都大学大学院地域資源計画論研究室の参加により千町棚田のフィールドワークと耕作放棄地解消のための草刈りを実施。

応募団体からのアピール・メッセージ

地元住民の方々との協力により棚田オーナー制を実施し、農業や石段の保存を行い、棚田百選に選定されることを目指し充実した活動を行っている。

西条市西ひうち３－２１　Tel：0897-58-5535

9 愛媛県西条市（さいじょうし）

農林漁業、農村文化体験

輸出

中国四国農政局 ディスカバー農山漁村の宝 選定地区

愛媛県立丹原高等学校園芸科学科GAP班（えひめけんりつたんばらこうとうがっこうえんげいかがくかぎゃっぷはん）

～ブドウのG-GAP認証取得と海外輸出販売～

GAP審査（現地審査）

台湾でのプロモーション販売

経　緯

○西条市丹原町では担い手不足が著しく、農業の衰退が進んでいくことが懸念されている。

○当校の園芸科学科では農業の基礎的な知識と技術、地域課題に取り組む人材を多く輩出しており、地域農業の先駆的役割、地域振興の起爆剤、地域のセンター的役割を果たす存在となることを目指すこととした。

取組内容

○GAP認証の取得に取り組み、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。

○GAP認証取得による取引拡大と当校のPRのため、台湾への輸出に取り組み、生徒20名による台湾でのプロモーション販売を行った。

活動の効果

○平成30年にブドウでは全国の高校で初となるグローバルGAP認証を取得。GAP認証取得を通して、生徒に安全安心な農産物を消費者に届けるという責任感が芽生えた。

○ブドウ栽培・GAP審査・輸出販売・地域啓発活動と一貫した学習ができており、人材育成に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、生産工程のリスク管理向上と継続に係るコスト低減に努め、持続的なGAP教育と人材育成に努めていきたい。また、地域の農業者や関係機関にGAP導入のメリットを発信し、先導者として活動を続けていきたい。

西条市丹原町願連寺163　Tel:0898-68-7325

10 愛媛県大洲市（おおずし）

伝統の継承　復興　学生・若者の活躍

愛媛県立大洲農業高等学校（えひめけんりつ おおずのうぎょうこうとうがっこう）

～食の財産「そばの食文化」を通じて地域興し～

「手打ちそば　しょうざん亭」オープン

高校生で結成した応援隊「大農蕎麦’s」

経　緯

○農山村の荒廃や高齢化により、伝統食や郷土料理といった昔ながらの食文化が廃れている現状に危機感を感じた。

○高校生が愛媛県南予地域の特色ある食文化を保護、継承することで地域活性化に貢献できないかと考え活動を開始。

取組内容

○愛媛県農山漁村生活研究会と連携し、郷土料理の講習会を実施、高校生が受講。

○そば栽培の応援隊として「大農蕎麦’s（そばーず）」を結成、農家と連携して耕作放棄地での蕎麦栽培を実施するとともに、高校生がそば打ちを指導。

○平成30年６月に廃校となった中学校で「そばカフェ」をオープン。令和元年６月には地元住民とともに「手打ちそば　しょうざん亭」を１日限定でオープン。

活動の効果

○高校生による郷土料理の講習会受講は、和食の保護活動の具体的事例や地域の伝統的な食文化の保護、継承の取組事例として取り上げられた。

○「そばカフェ」のオープンと「大洲そば」のPRを通じて地域の活性化につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

高校生のアイディア力や企画力を活かし、食の財産である「そばの食文化」の持つ魅力をさらに引き出すことで、地域を興し、災害復興、活性化に発展させていきたい。

大洲市東大洲15-1　Tel：0893-24-3101

11 愛媛県大洲市（おおずし）

環境保全・景観保全　食育・教育　企業との連携

長浜高校水族館部（ながはまこうこう すいぞくかんぶ）

～日本初！高校生が運営する高校内水族館～

水族館部員2020

部員が開発したハマチの輪くぐりショー

経　緯

○高校の隣にあった四国初の水族館である長浜水族館が老朽化のため1985年に閉館、水族館の復活を高校生の手で！という思いから、日本初の高校内水族館が誕生。

○現在は2つの教室と中庭、玄関などに約100種類の水槽を設置、150種2000匹の生物を展示している。

取組内容

○月１回の一般公開、教育団体を対象とした臨時公開、松山空港での出張水族館などを通して、延べ115,037人の来館者に無料で学びの場を提供。

○長高水族館を核として、個人や事業所が所有する水槽を公開、長浜の町全体を水族館に見立てた「長浜まちなみ水族館」を開催。

○水族館部研究班は、海洋生物の研究に取り組み、研究結果を基にクラゲ予防クリームを商品化。

活動の効果

○水族館部をモチーフにした漫画、小説、映画、テレビ番組の制作、教科書への掲載など高校生による地域貢献に注目が集まっている。

○長高水族館に人が集い、高校生との交流が生まれることで、地域が活性化するとともに環境教育の場が提供されるなど、町作りの要として機能している。

○海洋生物の研究内容が数々の賞を受賞、クラゲ予防クリームの商品化によって、長浜地域の知名度を一気に上げた。

応募団体からのアピール・メッセージ

長高水族館の活動を核として、学校と地域の活性化と環境教育の場を提供しつつ、長浜水族館の復活を目指して積極的に取り組んでいきます。

大洲市長浜甲480-1　Tel：0893-52-1251

12 愛媛県伊予市（いよし）

食育・教育

教育機関との連携

中国四国農政局 ディスカバー農山漁村の宝 選定地区

愛媛県立伊予農業高等学校（えひめけんりついよのうぎょうこうとうがっこう） 生活科学科食物班（せいかつかがくかしょくもつはん）

～いよはよいプロジェクト　ー地域食材PR活動ー　～

商品化・メニュー化されたもの

子ども食堂への参加ー地元農家との連携ー

経　緯

○平成24年度から伊予市・松山大学と連携し、伊予市をPRするための特産品の開発に取り組む。

○他校や他地域、海外に地域食材を使用したレシピを提供。講習会を開催して地域食材の普及に努める。

取組内容

○びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。

○農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。

○他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。

活動の効果

○地域食材を使用したレシピは商品化・メニュー化され、伊予市のPR活動に貢献。

○2021年のJAカレンダー掲載レシピに「じゃこ丼」が採用される。

○伊予市役所・松山大学・唐川びわ葉生産研究会等様々な機関と連携を図ることができ、地域食材の普及啓発に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

開発したレシピが地域の「ご当地グルメ」となるよう研究を続けていき、伊予市のPRに努めていきたい。

「食」で伊予市と人々をつなぐことができるよう、すべての人が食べやすいレシピを開発していきたい。

伊予市下吾川1433　Tel:089-982-1225

13 愛媛県四国中央市（しこくちゅうおうし）

伝統の継承　輸出　学生・若者の活躍

愛媛県立土居高等学校情報科学部（えひめけんりつどいこうとうがっこうじょうほうかがくぶ）

～地域社会への奉仕と地域貢献を目指して！～

インバウンド盆栽ツアープランの商品化

バーチャル観光　盆栽たいそう体験講座

経　緯

○五葉松の日本3大原産地の一つである四国中央市は、近年の高齢化により地元の盆栽農家が存続の危機に直面。

○現状のままでは盆栽農家だけでなく、故郷（まち）全体がなくなるという危機感から、存続に向けた取組を実施。

取組内容

○2019年に地元特産五葉松を核として、地元伝統文化を含めた学習体験型旅行プランを提案、盆栽ツアーの商品化を実現。

○今年は2019年に商品化した盆栽ツアーをオンライン生中継で再現。高校生が講師を務め、盆栽の歴史や実技、茶道文化や盆栽たいそうなどの体験講座を行った。

活動の効果

○高校生企画主導のインバウンド盆栽ツアーは前例がないことから多数のメディアから取材を受けて報道されると共に、参加した外国人によりSNSを通じて五葉松と盆栽文化を世界へ発信することができた。

○盆栽のオンラインツアーを通じて親子双方向の学びの場を提供し、郷土愛やシビック・プライド（自分のまちは自分が守る責務）の育成につなげた。

応募団体からのアピール・メッセージ

高校生が中心となって、盆栽文化の継承や地域の魅力を発信することで、取組の周知、知名度の向上、協力者の拡大を図り、地域活性化につなげたい。

四国中央市土居町中村892　Tel：0896-74-2017

14 愛媛県四国中央市（しこくちゅうおうし）

伝統の継承　6次産業化　輸出

赤石五葉松輸出振興組合（あかいしごようまつ　ゆしゅつしんこうくみあい）

～姫を愛する愛媛より、盆栽の嬢王赤石五葉松盆栽をEUへ～

輸出消毒梱包作業状態

ドイツバイヤー商談風景

経　緯

○10年前より、構成員である「赤石の泉」が検疫栽培を呼び掛け、盆栽バイヤーを招致。4年前よりフランス、ドイツにコンテナ輸出の復活を果たす。

○需要に対応すべく生産者に呼び掛け、生産数量を確保、グローバル産地づくり推進事業認定を経て組合を設立し、EUでの窓口を開設する。

取組内容

○国内の産地を海外盆栽バイヤーが商談して回る事業に参加。

○ドイツ、ポルトガル、フランス、ベルギーなどのバイヤーが四国中央市の盆栽園を見学し、赤石五葉松盆栽産地を認識してもらう。

○生産者にEUへの輸検疫栽培を進めて、共同出荷できる体制を整える。

活動の効果

○EU輸出検疫栽培を2年経て、愛媛県内より40年ぶりに直接輸出販売を達成。

○4年間連続で輸出継続を実施中、4年目にはドイツへも直接愛媛より輸出実績ができる。

○4年前よりフランス、ドイツへの輸出が復活、現地では非常に価値のある盆栽として高値で評価をされる。

応募団体からのアピール・メッセージ

2019年10月30日バチカン宮殿で、フランシスコローマ教皇へ赤石五葉松盆栽を贈呈し、教皇から自然の風景鉢の中に醸し出す日本のものづくりを評価いただいた。

四国中央市土居町上野甲1525　Tel：0896-74-2698

15 愛媛県四国中央市（しこくちゅうおうし）

環境保全・景観保全　雇用　6次産業化

（株）やまびこ（かぶしきがいしゃ　やまびこ）

～新宮茶にこだわり続ける村おこし～

観光交流施設「霧の森」の様子

新茶まつりでの新茶販売の様子

経　緯

○新宮村（現四国中央市新宮町）は、古くから山茶が自生するお茶の産地。

○地域特産「新宮茶」をテーマに、過疎化・高齢化が急速に進む村と都市との交流促進、「新宮茶」を活用した加工品の開発・販売、更には若者の雇用機会の創出による地域活性化を推進。

取組内容

○1997年に県内外から若手職員を採用し、第３セクターの会社として発足。

○1999年にオープンした観光交流施設「霧の森」を核に、地域資源「新宮茶」にこだわった事業を展開。

○100％新宮茶を原料とした当社の看板商品「霧の森大福」（新芽の時期にネットを上からかけて育てる『かぶせ茶』という甘みの強いお茶を用いた大福）を、霧の森のオープンにあわせて開発。

活動の効果

○消費者の支持を得て「霧の森大福」は年間24万箱、２億6400万円を売上げ、県外のフェア等でも行列が絶えないなど地域を支える人気商品に成長。

○現在83名が働く、人口1,000人の新宮地区の中核企業に発展した。

○大福に新宮茶のみを使用することで、「かぶせ茶」の生産量は1.5倍となり、地域内の245名の茶農家を支えるなど地域経済への波及効果も大きい。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、若手職員を中心に、地元の茶生産農家とコラボして、フレーバー紅茶やそれを原料としたロールケーキ、フロランタンなどの試作に取り組み、お茶をもっと飲みたくなるようなスイーツ開発を目指していきたい。

四国中央市新宮町馬立４４９１－１　Tel：0896-72-3111

16 愛媛県西予市（せいよし）

雇用　農福連携　地域農業の活性化

百姓百品グループ（ひゃくしょうひゃっぴん　ぐるーぷ）

～山のちからは人のたから～

青ネギの選果の様子（就労支援の様子）

産直売り場の様子

経　緯

○深刻化する過疎、高齢化を踏まえ、地域活力の維持向上を図るべく、平成８年に小規模農家が結束し直売所を開設。

○平成10年には百姓百品産直組合を設立、現在は地域課題の解決を目標に、同じ志をもつ３つのグループ会社が誕生し、参加主体の拡大、多様化、高収益化を推進。

取組内容

○百姓百品株式会社（産地直売所）
　産直組合を株式会社化し、小規模農家が生産する農産物や加工品の流通・販売を支援。

○株式会社百姓百品村（農業生産法人）
　耕作放棄地などの圃場を整備し、青ネギを栽培。毎日約1tの青ネギを全国に出荷。

○株式会社野村福祉園（就労継続支援B型事業所）
　農福連携の観点から、障がい者の経済的自立を目標に約40名が利用。

活動の効果

○社員が市内山間部を巡って集荷し、県内５箇所の売り場へ配送、毎年約２億円を売り上げる。本店直売所の惣菜製造やカフェの営業では、女性や障がい者が活躍。

○青ネギの栽培により耕作放棄地の解消と、Iターン、Uターン者を積極的に採用することで雇用創出を実現。

○障がい者は青ネギの生産、出荷作業などで年間約２千万円の生産活動を実施し、令和元年度は月平均4.5万円以上の工賃を支給。

応募団体からのアピール・メッセージ

　労働環境の整備による地域雇用の拡大、販路拡大やブランド化の推進による農家の所得向上、GAP認証取得による消費者からの信頼の確保に取り組んでいきたい。

西予市野村町野村6-23　Tel：070-5682-4756